



第84号 令和4年12月
編集発行 庄内教育事務所 指導課
〒997-1301
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号
TEL0235-68-1982/FAX0235-66-3015

全国学力・学習状況調査の分析から授業改善へ

10月11日(火)に開催した学校研究ワンアップ研修会では、「庄内地区における全国学調の結果から見えること」というテーマで講義・演習を行いました。グループ演習では、下記の4つの演習問題から一つ選び、授業改善に向けた次の一手を話し合いました。

参加者アンケートより

- ・全国学調の問題から、どのような力が求められていて、なぜ誤答を選んだのか、正しく解答するにはどのような授業を積み上げていけばよいのかまで検討できた。
- ・全国学調の問題をもとに、必要な力や手立て、授業改善の方向を考えるというのは、今まで行ったことがなかったので新鮮だったし、新たな発見につながった。
- ・どんな力が求められているのか、6年生担任以外も自分事として捉えていかなければならないと思った。
- ・全国学調の問題を分析し、算数の問題は、算数の知識だけで解くことはできない、ということがよく分かった。

どのグループでも活発な意見交換がなされ、共通に話題になったこととして「概念形成に至るまでのプロセスを大事にすることが大切」、「付きたい力の系統性を見据えて授業づくりをすることが必要」などが挙げられました。



ぜひ、それぞれの学校でもミニ研修として、演習問題について一緒に考えてみてはいかがでしょうか。



【演習①】小算 2(3) 果汁問題より

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上のア)にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

70.0%

1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。

2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。

11.9%

3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

県正答率 17.2%



なぜこのような誤答が生まれたのか？ 解くために必要な力は？

【演習②】小算 1(4) カップケーキ問題より

くるみ 85×21の答えが1470より必ず大きくなることは、85×21をそのまま計算せずに、85と21をがい数にしてもわかります。

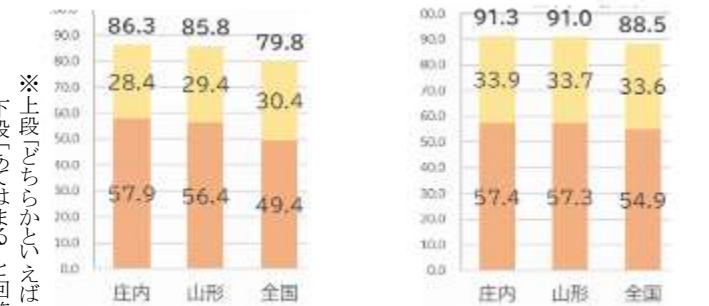
ア 85を小さくみて80, 21を小さくみて20として計算します。 県正答率 32.2%

イ 85を小さくみて80, 21を大きくみて30として計算します。 6.4%

ウ 85を大きくみて90, 21を小さくみて20として計算します。 50.3%

エ 85を大きくみて90, 21を大きくみて30として計算します。 10.3%

【演習③】理科的授業づくりの視点から

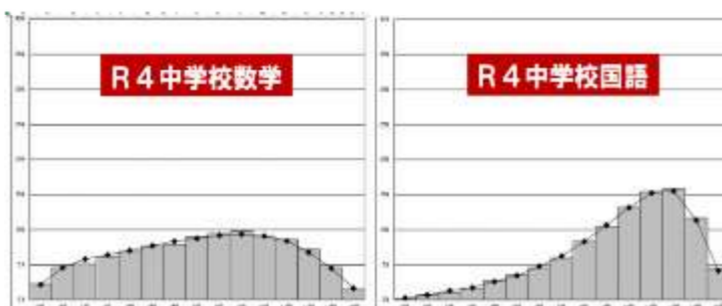


※上段「どちらかといえば当はまる」下段「あてはまる」と回答した割合



理科と、国語や算数の授業…何が違うの？

【演習④】県正答率分布図より



数学の分布図がエアーズロックみたい…何が問題なの？

【鶴岡市立櫛引西小学校】(佐藤 奈保子 校長) 9月5日訪問

学校教育目標 = 共育目標「笑顔いっぱい 学校大好き 櫛引大好き 西小の子ども」～「舎短取長」で自立・自律する力を育てる～

- (1) 経営方針として「児童にとって、地域や保護者にとって、教師として、職員として」の視点を学校経営グラウンドデザインの中核にすえ、教育目標の共有化・具現化に取り組んでいる。
- (2) 「つなぐ」をキーワードに、各指導部経営計画および学校研究計画に、生徒指導三機能を位置づけ、互いの良さに気付かせ、子どもを生かす授業づくりなど、全職員が意識し、子どもの成長につないでいる。
- (3) 特別な支援を要する児童に対し複数回研修を設け、次の一手を全体で協議し、指導方針の明確化に努めている。

【庄内町立余目第一小学校】(村上 久夫 校長) 10月4日訪問

学校教育目標 「言葉を大事にする 笑顔をかかわす 自分を大切にすること」

- (1) 言葉を大切に、対話を通して考えを広げ、深めることができる授業づくりに取り組んでいる。また、既習内容を生かし、発言、発表、説明ができる授業の構築に努めている。
- (2) 地域コーディネーターと連携しながら福祉活動やボランティア活動、地域調べ学習、魚の学習、メダカ保護活動、食農教育など地域と一体となって特色ある教育活動に取り組んでいる。
- (3) 「あいさつ日本一」を合言葉にしたあいさつ運動、縦割り班でのひまわり大リンピック、きれいな環境を自分たちで維持、創造する中庭の花いっぱい活動など、集団の一員としての自覚を高め、学校生活を豊かにしようとする態度・実践力を育てている。

【三川町立三川中学校】(橋 正敏 校長) 10月21日訪問

学校教育目標 「心豊かで 賢く たくましい 生徒の育成」 - 自律・共生 -

- (1) 「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組み、「学校が楽しい」という生徒が増えるように教職員が話し合いを重ね、行事改善+授業改善(生徒指導の三機能を活かした授業づくり)の実践を行っている。
- (2) 学校研究では、課題提示、発問、考えを深めるための工夫、教師の問い返し、ICT機器の活用など、深い学びにつなげるために手段、ツールの活用に力を入れ、最適なツールを見極めるといった実践に取り組んでいる。
- (3) 6年生を中学校に招いての授業や出前授業などを行ったり、自尊感情を高めるために小中で同じ取り組みを行ったり、小中連携を推進している。また、幼保・小・中でも研修会を行い連携を図っている。

R4年度いじめ・不登校未然防止地区協議会②(10月27日)

「保護者対応の危機管理～関係構築・トラブル対応～」

- 1 主な講義内容

神田外語大学の嶋崎政男教授から上記のテーマで講義・演習を頂きました。保護者対応の危機管理について、リスクマネジメント(未然防止)、クライシスマネジメント(危機対応)、ナレッジマネジメント(再発防止)の3段階について説明がありました。特にナレッジマネジメントについて事件・事故の発生から児童生徒の安心感、安全感、信頼感の回復を目的として再発防止につながる取組を教えてくださいました。また、保護者との関係づくりにおいて、特に大切なポイント3点お伝えいたします。

 - ① 心理的事実を受け止めること(客観的事実よりも、そう思ったことに受容・共感する。)
 - ② プラス面を指摘できる教員(できていないことよりできていること、結果よりも過程を伝える。)
 - ③ 原因追求より解決志向 過去より現在(リソース探し・好ましくない事象の裏にある良い点を見つめる。)

2 参加者の声(一部抜粋)

- 学校側、教師側の立場に寄り添ってくださっている講義内容で、保護者や子供への向き合い方を前向きに考えることができました。
- 保護者を学校に招くときに、相手へのリスペクトはあるか? というお話がとても印象に残りました。相手への敬意をこめることで、一緒に問題の解決方法を相談していくという心持ちで臨めるような気がしました。
- 一度あったことは、また起こりうる。他校で起こったことは、自校でも起こりうるという言葉が印象に残りました。ナレッジマネジメントの大切さを忘れずに危機管理をしていきたいと思いました。
- プラスの面を指摘したり、「訊く」力をつけてIメッセージで相手から答えを引き出したりできるように意識したいと思いました。

